

正月

A HAPPY NEW YEAR

女湯の刀掛け

女正月などと申します。
 一年中家の中で忙しく立ち働いている女たちに、一年に一度くらいは楽をしてもらおうという意味なんだそうだと、母から聞かされた事があります。
 確かに私の母の年代くらいの女は、座っている時間が有るのかしらと思う程一日中よく立ち働きました。
 時が経つにつれ、女も正月も時代も、ずいぶんと変わりました。
 女の名称も随分と変わった様です。今では、団地の奥さんも八百屋も豆腐屋も皆奥様ですが、世が世、江戸の頃なら奥様と呼ばれるような人はたいへんに身分の高い一握りの人達でした。一般庶民の妻たちは、おかみさんとか、山の神、かかあ、女房などはよい方で、シタ歯、化けべそなんてひどい呼ばれ方をしたものです。
 確かにひどいといえばあまりな呼び方ですが、のん気で威勢のよかった当時の町人達の生活の様子が伝わって来るようです。
 実際、当時の江戸の町の暮らしはのん気なものだったようで、大家も店子も、今でいう警察官であった町方与力も皆仲良くのんびりと暮らしていたようです。
 社交場であった銭湯も、男湯は朝っぱらから朝湯をきめこむ町人達で早々混雑しておりました。八丁堀の旦那方も例にもれず、今でいう朝10時のゆっくりした出勤前に朝はさすがに誰も来るものがない女湯に、小者にゆかたを持たせてやって来ます。
 入浴といえども丸腰ではすまない。そこで腰に差して来た刀を脱衣場の刀掛けに掛ける。特権階級にありながら庶民に溶け込んでいた与力は、誰もいない女湯で美しい女体を想像しながらニヤニヤと朝湯につかったそうです。そんなわけで、江戸の女湯には刀掛けがあったそうなの。



FISHING

魚一心



私達の釣りクラブ“魚一心”の御案内です。
 ミルクホールのカウンターでは、釣り好きな仲間達が集まり、釣り談議でもちきりになる事がよくあります。釣りは一人でも二人でも大勢でも楽しめますがやはり大物が釣れた時などはできるだけ多くの人に自慢したいもののように、一度誰かが口火をきると、とめどもなく皆それぞれの自慢話や体験談が次から次と出てくるのです。そして『やっぱり鯛の時の仕掛けはこうだ』とか『黒鯛のポイントは何山のあのあたりだよ』なんて熱心な情報交換会になるのです。釣りはテニスやヨットなどにくらべてダサイ！なんてイメージがあるみたいですが、これがやってみると楽しいんです。海は広いし、空は青いし、その上釣れた魚が美味しい！ストレス解消、食欲快調、ちょっとダサイくらいどうって事ありません。春先の海たなご、夏のキス、秋のいなだに、冬場のすずき、さあ皆さん、私達と一緒に釣りに出掛けてみませんか？

魚一心 釣りクラブ会員募集のお知らせ

- 1 会員の条件・・・男女、年齢、釣り経験全て問いません。
 - 2 本部、連絡場所・・・ミルクホール
鎌倉市小町2-3-8 ☎0467(22)1179
 - 3 入会金・・・・・・1000円
月会費・・・・・・1000円
 - 4 定例会・・・・・・月1回、ミルクホールにて
 - 5 恒例釣り旅行・・・9月上旬伊豆下田にて
 - 6 賞・・・・・・年間賞、月間賞、大物賞その他
(会規定のポイントにより決定)
- ★初心者、女性大歓迎です。どんどん応募して下さい。

営業時間のお知らせ

AM11:00~PM11:00

定休日は、月曜日または祭日の翌日です。

元旦より10日までは休まず営業しております。

COLUMN

なつかしい昭和30年代

私が小さかった頃、日本中どこへ行っても、街はまだセピア色でした。すすけた古い板べいと、どろんこ道、ガタガタ走るオート三輪、土で汚れたこども達の茶色い顔や手。雨がふると長くつはかならず必要になり、路地という路地は水たまりでいっぱいになる。それでもバス通りとか、電車通りとか呼ばれる大きな道路だけはコンクリートが敷かれ、道路の真ん中の線路の上を路面電車がチンチンと鐘を鳴らしながら、自動車などめったに通らない道をわがもの顔で走っていました。

街に夕暮れが訪れる頃になると、皆いっせいに忙しそうに動きだします。それぞれの家からは白いかっぽうを着て手には買い物かごを下げたおかあさん達、夕日に追い掛けられるように家に向かうこども達、なぜかもの悲しい笛を吹いて街を売り歩く豆腐屋さん、やはり得意の喉で唄いながら売り歩く納豆売り。

おかあさん達が買い物に集まる所は、土間にトタンの屋根をくっつけたばかりの、何々百貨店なんて看板をかかげた大きな市場。中には八百屋や魚屋、乾物屋、小間物屋、そうざい屋、袋屋、砥ぎ屋、豆屋、駄菓子屋、うどん屋、何でも揃っていてもそれも八百屋でも魚屋でも一軒だけでなく何軒も在るのだから、皆、うちの新鮮だ安いよと競って前を通る買い物客に大声で呼び声をかける。裸電球の下での、あの活気とそうざいと土の香りの入り混じった匂いは今も懐かしく思い出します。もの悲しくて、活気に溢れていたあの夕暮れ時にもう一度行ってみたいなと思います

